

～ボランティアに参加した学生の声～



人間健康学部 スポーツ健康学科 3年次

入澤 那奈 (いりさわ なな)

ボランティア名称：恩納村学力向上推進事業「未来塾」

未来塾を始めたきっかけは、現在教職を取っていますが子どもとの接し方がわからず、それを克服したいと思ったためです。学習形態は自主学習において手が止まっている生徒を中心に教えていく形です。そのため、生徒との関り方は様々です。最初は子どもたちとうまくコミュニケーションが取れるのか不安でしたが、元気に挨拶してきたり、次はいつ来るか聞いてくるようなかわいい子どもたちに教えることができてよかったと思っています。実際に教えていくと、これまでの経験から頭の中ではこうなるだろうと分かっているけど、理解してもらうには何でそうなるのか説明する必要があります。途中途中で会話をするようにしていますが、言葉にして伝えることが難しく、いろいろ試行錯誤しながら教えています。子どもたちとも仲良くなることができ、職員や未来塾の講師である他の学生も親しみやすい人が多く、毎週楽しみに通っています。

国際学群 語学教育専攻 3年次

新井 沙季 (あらい さき)

ボランティア名称：国頭村滞在型学習支援ボランティア（第1クール）

国頭村の豊かな自然のなかで行われた第1クール3泊4日。滞在型学習支援ボランティアとして参加させていただきましたが、私たち学生が中学生や小学生から学ばせてもらうことのほうが多かったです。当初の予定が変更され、午前中は国頭中学校にて陸上練習と部活動支援、午後は学童で小学生と触れ合いました。中学生と小学生に関わる機会をいただけたことで、中学生と小学生の発達段階の違いや先生（大人）との関わり方の違いに気が付くことができました。

中学生の素直な心と互いの個性を認め合う姿が4日間のなかで最も印象に残っています。連日筋肉痛に苦しめられたことも含めこの4日間で最高の経験をさせていただきました。今後の大学での学びに活かし、来年の教育実習での学びを深められるようにしたいです。

国際学群 情報システムズ専攻 3年次

金城 七樹 (きんじょう かずき)

ボランティア名称：国頭村滞在型学習支援ボランティア（第2クール）

まずは全児童12名の奥小学校に配属。複式学級は初めてだったので新鮮でした。次に全児童90名の奥間小学校。meetでの授業もあり、1人1台端末を使いこなしている姿に驚きました。先生方もこどもたちも、初対面の私にニコニコ話してくれました。帰り際に寂しかったです。移動して、奥小運動会当日は、急遽リレーも参加しました。児童・教職員・地域の皆さんの距離が近く、地域で楽しみ、こどもたちの成長を喜ぶ、みんなでつくる運動会という温かみを感じました。

文字数に収まらないほど多くのことを経験できました。また、教職課程を学んだうえで実際の学校現場に入ること、先生側の視点、こどもたちとの接し方など、気づいた点が多くありました。本当に参加してよかったと感じています。協力してくださった先生方、こどもたちに感謝しています。

教員養成支援センター

だより

第32号

2022年10月28日発行
編集・発行：名桜大学教員養成支援センター
所在地：沖縄県名護市字為又1220-1

教育は未来への投資



教育の目的は、人格の完成を目指す「人づくり」です。いつの時代も、社会の変化の中で「これからの時代の教育はどうあるべきか」ということを想定して、教育目標が設定されます。

先日、沖縄県立教育研究所（現、沖縄県立総合教育センター）の設置十周年記念講演の資料を拝見する機会がありました。演題は東洋氏（1954年、当時、東京大学教授）による「明日の教育を考える」でした。その内容は「不確実性の時代」を趣旨として、当時の教育課題について語られています。

「これからの時代は、不確実性の時代と言われ、世の中のあり方、人の物の考え方、行動の基準が、現在よりも、もっと多様になり、かつ、変動が激しくなっています。そういう不確実性の時代になると、はっきりした未来の社会像、時代像を描くことが困難です。このような時代には、これからの社会でどういう能力や技能が必要なのか、ということ、それほど明確に決めることができない。」と述べられています。

それは、まさに今私たちが、これからの教育はどうあるべきかと直面している内容と共通であることに驚嘆しました。何故なら、それは半世紀以上も前の講演なのです。さらに、「不確実性の時代」に向けて、「子どもたちには、今までよりも失敗を恐れず、もっと開いた気持ちで学習に取り組む必要があり、知的、学習的な冒険心を作る必要がある。」と述べています。

さて、これからの日本が目指すべき将来の社会はSociety 5.0と表現され、人間の創造性とデジタル技術を駆使し、物事を解決することが必要となってきます。それでは、未来への投資として名桜大学の教育は何を求めているか、私たちは今、何をやるべきかを、皆さんとともに考えていきたいと思います。

本学は、建学の精神「平和・自由・進歩」を基本

理念とし、「国際社会で活躍できる人材の育成」を教育目標としています。さらに、国際社会で活躍できる人材とは、「自由な発想のもと、俯瞰的に問題を把握し解決する能力を有し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人」と示しています。

そのため本学は、自律的に学ぶ基本的能力として、批判的な読書ができる能力、批判的な思考能力、論理的な思考と判断ができる能力などを重点的に学んでいくことを奨励しています。（砂川昌範学長のあいさつより引用）

不確実性の時代故、未来の社会像を描くのが困難であり、未来の困りごととも今は想像ができない事象だということは、それほど理解し難いことではありません。しかし、今後起こり得るであろう多様な困難にも、最善の解決策を講じるためには、次々と生み出される新たな社会像や事象を正しく理解し、判断し、解決に向かうための「考える力」を身に付ける必要があると思います。つまり、今なすべき未来への投資は、学長のあいさつに示されている「批判的な読書ができる能力、批判的な思考能力、論理的な思考と判断ができる能力」の育成だと言えるのではないのでしょうか。本学の建学の精神や教育目標を理解し、自己実現に向けて自己の将来のシナリオを創造して欲しいと願っています。

教職をめざしている学生には、子どもたちに「未来を生きる力」を育むという視点も考慮に入れ、今は、自己の「未来への投資」に努力が求められます。教員のやりがい、子どもたちの未来の手助けができることです。それは努力した人にしかできない大きな社会貢献です。

教員養成支援センター長

（リベラルアーツ機構教授）高安 美智子

教育・養護実習生 学校実務体験ボランティア活動報告書

本学では、児童生徒との触れ合いや現職教員との交流を目的として、教育・養護実習前後に実習校での実務体験や学習支援ボランティアの活動の機会を設けました。学生の希望と学校現場とのマッチングで、実習前または実習後の学習支援・保健室支援ボランティア活動に14名の学生が参加しました。4月から長期にわたって活動を継続している学生もいます。学生の活動後の振り返りから、貴重な体験になったことが窺えます。

このような貴重な活動の場を提供していただき、ご指導をしてくださいました学校現場の先生方に厚くお礼を申し上げます。

本事業は、名桜大学教員養成支援センターと北部教育研修センターが協働で実施しており、上記の趣旨や活動について学校現場のご理解とご協力が得られましたら、今後も継続していきたいと考えております。

学群・学科	学 年	参加者数	学 校 名
国際学群	4 年次	5 名	東江中学校、屋我地ひるぎ学園、金武中学校、
スポーツ 健康学科	4 年次	7 名	本部中学校、屋部中学校、上本部学園、
	科目等履修生	2 名	兼次小学校、東江小学校、稲田小学校、 大宮中学校、今帰仁中学校
活動期間 回数（時間）	活動期間 4月27日開始 期間や回数、時間等は、学生または学校現場に合わせて様々でした。1～3週間、または3月までの予定の学生もいます。		
活動内容	・担当学年の授業補助 ・通級の子供たちの学習支援 ・英語の授業観察 ・英語の学習支援 ・小学校1年生の図工の時間の補助 ・授業中の机間指導 ・英語の授業のアシスタント ・スモールトークの出題、やり取り ・英検の監督補助 ・スピーキングテストの試験管 ・中学生への学習支援 ・宿題の手伝い ・テスト対策など ・掃除後の授業のアシスタント ・保健室登校の生徒の支援 ・歯科検診の結果記入 ・保健室での生徒対応 ・運動会の準備や片付け ・掲示物の作成 ・検診の準備 ・登校しぶりの子の支援 ・月ごとの保健室の掲示物作成 ・給食時間の消毒 ・給食支援 ・算数の授業の学習支援 ・主に2年生・4年生の学習支援 ・保健室来室者対応 ・保健室の職務耳鼻科健診の補助・事後措置 ・尿・蟯虫検査回収 ・保健室の手伝い ・歯科検診の準備 ・保健行事（健康診断等）の補助 ・保健室対応の支援 ・保健体育の学習支援 ・部活動指導 ・健康診断の手伝い ・耳鼻科健診の補助 ・保健室来室者対応 ・挨拶運動 健康診断補助 ・授業の見学 ・保健室で勉強 ・保健室来室生徒対応、掲示物作成 ・運動会準備（リボン作り等） ・運動会片付け（はちまきアイロンがけ等） ・保健室執務（健康診断・健康観察の入力等）		



写真 学校支援ボランティアの学習支援の様子

学校実務体験ボランティア活動に参加した学生の感想（アンケートより抜粋）

○一学期に実習があったメンバーは数週間しか実施できなかったが、私は教育実習が9月だったため、3か月の間ボランティアをすることができました。先生方の授業見学、生徒とのラポールづくり等、教育実習に生かせることをたくさん学ぶことができました。

○保健室での業務の仕方や熱中症や子どもの外傷、発達障害など養護教諭に必要な知識を教えて頂き、参考書等では学ぶことができない知識を身につけることができました。そして、子どもたちと関わる時間を多く頂き、毎週とても楽しく過ごすことができました。身近に子どもたちと関わりをもったことで、今後教師になってこんな指導がしたい、こんな掲示物を作りたいなど色んな思いを感じました。保健室では他の先生方との会話や防災訓練等の会議を見させていただき、養護教諭は裏で多くの部会に携わっていると分かりました。私もこれからも子どもの健康安全に関する知識についてもっと勉強しようと思います。今後もよろしくお願い致します。

○事前実習の良かった点や今後の課題等、健康診断の結果をパソコンのソフトに入力する方法や健康観察の項目など養護教諭が行う業務について学び、教育実習に生かすことができました。また、保健室のみでなく学級の体験を多くさせていただき、生徒感や接し方を学ぶことができ、とても良かったです。小中一貫校であったため、小学生と中学生の両方と関わりをもてたことがとても良かったと思います。年代によって保健室に来室する理由が異なることが実感できました。

○学校ボランティアを通して、保健室の業務や生徒との関わり方を学ぶことができました。養護教諭の先生が二人いたため、それぞれの先生方の考え方を聞くことができ、とてもいい学びになりました。学校ボランティアに行く前は小学生との関わり方がわからなかったが、徐々に話しかけ方や支援の方法などを身につけることができました。また、支援員の先生方やスクールカウンセラーの先生方など学校にはたくさんの先生方が子どもたちに関わっていることが分かりました。この学校ボランティアの経験から、小学校・中学校どちらの養護教諭も素敵だと感じ、教員採用試験を頑張ろうと思うことができました。

○本当に行って良かったと思っています。採用試験の勉強や卒論がある中での事前実習ではありましたが、週に1回現場で学ぶ時間があったことにより、学びを深めたりモチベーションを維持したりすることができたと思います。生徒との関わりももちろん勉強になりますが、教員採用試験に関することや養護実習に関することを担当の新垣先生に相談したり質問したりできたことも感謝しています。

○小中一貫校に行かせてもらうことができ、小学生・中学生どちらの生徒にも関わることができました。小学生と中学生それぞれに対する養護教諭の接し方が異なることや、年齢によって保健室に来る内容が異なることを実感しました。また、2人の養護教諭の先生のもとでボランティアできたため、いろんな保健室経営の考え方を学ぶことができ、とても良かったです。ありがとうございました。

○事前実習を温かく受け入れてくださり、ありがとうございました。保健室の業務や養護教諭の職務だけでなく、採用試験に関することや養護実習に関すること等のご相談にも乗っていただき、本当に感謝しております。屋部中学校での学びや先生のお話が、いつも私のモチベーション向上へつながっていました。今後もあきらめず、養護教諭を目指して勉学に励みます。ありがとうございました。